



# 耳を澄まし、技術を磨く。

株式会社島津製作所 第十二代 代表取締役社長

上田 輝久

お客様の声に真摯に耳を傾けよう。就任にあたって、私は島津グループの全社員に向かってそう呼びかけました。

これまでも私たちは、お客様が携わる分野の発展に貢献するため、真摯に耳を傾け、そこにどのような困難があっても不断の努力で乗り越え、製品やサービスを形にしてお届けすることを信条としてきました。長きにわたり「技術の島津」と評価をいただくに至ったのも、お客様の声にお応えする機会を数多くいただいていたと同時に、そこでチャレンジを積み重ねてきた結果にほかなりません。

製品やサービスに何を求められるかは、お客様によって千差万別です。単に新機能が盛り込まれていれば良いというものでも、性能さえ優れていれば良いというものでもありません。お客様によっては、耐久性の高さを何より大切にされることもあれば、使いやすいアプリケーションの登場を心待ちにされているお客様など、それぞれのお声があります。その声は、会社の机や会議室にいたのでは決して聞こえてきません。お客様が研究開発されている現場、医療を提供されている現場、製品を製造されている現場に何度も足を運び、

私たちの製品に対するご意見や、さらなるご要望をお聞かせいただく。そして、営業も開発も一体となって答えを導きだし、お客様の事業、研究に一層お役に立てる存在となり、信頼いただける存在となることを目指しています。

もちろん、これは日本国内に限りません。真のグローバル企業を目指した各種取組の積み重ねにより、私たち島津グループは世界に数多くの拠点を持つに至りました。しかし、世界は多様性に富んでおり、国内とは比較にならないほど多彩なニーズがあります。それぞれの国に貢献し、存在感を発揮するにはまだまだ努力が必要です。より高度化、スピード化する社会のなかで、確実にニーズにお応えしていくためにはどうすれば良いか。模索するなかで、その答えの一つとして進めているのがイノベーションセンターの設置です。世界各国に開発担当者を置き、ご要望に素早くお応えできる体制構築を目指しています。

お客様の声に対する感度を高める一方で中長期的な視野に立った研究開発にも力を注いでいきます。新規事業の研究開発には、これまで以上にリソースを割き、最先端の研究をされ

ている大学、研究機関と連携を強化。そこで私たちの技術を提供すると同時に、最新の知見を吸収し、技術力の向上をスピードアップしていきます。現在のところ、共同研究の多くは日本国内ですが、アメリカをはじめとする海外からのオファーも増えています。この流れを一層加速し、グローバルな舞台で知見を深めていきたいと考えています。

科学技術で社会に貢献する。私たち島津グループが事業の根幹として受け継いできたこの社是は、140年たった今もまったく色あせていません。むしろ、複雑化、多様化する社会の問題を解決するうえで、科学技術の重要性はますます高まっています。

社会をより便利で、安全・安心なものにしようとするお客様の事業や取り組みを、私たちの技術が支える。あるいは、私たち自身が持ち得た知見を駆使して、業界をリードし、積極的に社会に働きかけていく。そうした活動を積み重ねることで、私たちの存在感を高め、お客様の事業に、さらには社会に一層貢献していく。私たちはこれからも、さらなる挑戦を続けます。